



## 「多助」があなたのまちを救います

一般財団法人消防防災科学センター 理事長

高田 恒たかだ ひさし



### 災害は待つてくれません

本年4月熊本県で震度7の大地震が発生し、多くの方が亡くなられ、家屋等に大きな被害が出ました。また、この10月には鳥取県で震度6弱の大きな地震が発生しました。さらに南海トラフ巨大地震、首都直下地震も近い将来その発生が懸念されているところです。加えて、本年夏以降わが国に襲来した台風は例年とは異なる動きによって各地に大きな被害をもたらしました。日本近海の海水温の上昇や日本を取り巻く大気が例年になく気圧配置となっていることがその原因とされています。このように、わが国では住民に災厄をもたらす地震、噴火、洪水・土砂崩れなどが、時に関係なくいたるところで発生しています。

### 緊急対応には情報が重要

市長は、いつ発生するかわからない災害に対応するために、どれだけの人材が確保できるのか、また、被災の程度はどのようになっ

ているかを迅速に、かつ正確に把握し、的確な判断をしなければなりません。

的確な判断は、情報の質・量に比例します。そして情報を充実させるためには市域全体をカバーする情報網が不可欠です。今や多くの人の身近な通信手段となりつつあるスマートフォンを活用してはいかげでしょうか。災害応急活動支援システム「多助」は、まさしく情報力の向上を実現するものです。

### 職員等の参集状況の把握

どこの市においても、市役所職員、消防職員、消防団員の参集の方法については整備されていますが、スピーカーで呼び出したり、電話をかけたがり、声を掛け合うところもあります。「多助」を使えば、電子的な操作で瞬時に必要な人員を呼集し、即座に動き出すことが可能になります。

また、一斉メールを使用しているところにおいても、一方的な呼び掛けしかできず、何人集まるかは集まってみなければわかりませ

んが、「多助」では、その数が把握でき、応急活動の作戦を迅速に立てることが可能となります。

### 画像情報による正確な判断

災害発生時は情報が錯綜し、その信ぴょう性を確認する作業に手間取りますが、「多助」による情報は、発信者、時刻、そして地図上で位置が瞬時に特定できます。

さらに、画像による分かりやすい情報は、市長の確かな判断を助け、迅速に災害対策を進める上で大いに役立ちます。

地域の隅々に住んでいる市役所職員、消防職員、消防団員等とあらかじめ連携を取っておけば、参集途上からでも情報が次々に入ってきます。情報こそ災害対策の基本です

### 災害現場の安全の確保

一方、市長は応急活動に従事している人達の安全も考えなければなりません。「多助」により、災害現場から退避する必要がある時

は、緊急通報を行うことができます。災害応急活動に従事している人たちの安全を確保してこそ、多くの人を救えます。

**普段の訓練の大切さ**

早い避難をと言われても、災害時の状況は千差万別です。気象状況、避難経路、避難所や備蓄の状況も確認する必要があります。サポート要員も必要です。

**平成28・29年度は無料**

「多助」は、昨年より都道府県、市町村の防災担当部局および消防を対象に運用を開始し、現在までに多くの団体にご利用いただいています。(11月10日現在28団体)

今年度および来年度は、無料で皆さまにご利用いただけるようにしておりますので、是非この機会にお試しください。

**「多助」の主な機能**

**① 参集要請をメッセージで伝達**

本部パーソナルコンピュータ(以下「本部PC」という)の操作を行うことで、登録している職員に参集要請のメッセージをスマートフォンおよびいわゆるガラ携帯に伝達することができます。スマートフォンでは、図1の画面で回答を選択して、送信します。

また、「多助」を災害発生時に最大限活用するには、常日ごろの情報収集・伝達訓練が重要です。この

**② 災害状況を画像で送信**

スマートフォンのカメラ機能で図3の①～④の手順で撮影を行います。その画像は、位置情報、コメントと一緒に送信します。

本部PCでは、地図に画像を重ねて表示(図4)するほか、一覧での表示もできます。

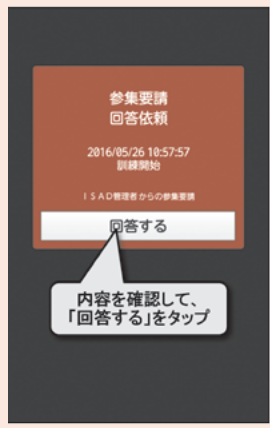


図1 参集要請時のスマートフォンの回答操作画面



図2 参集要請の回答状況(個人名表示)

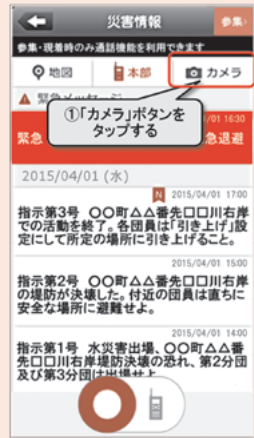


図3 スマートフォンによる画像伝送の操作

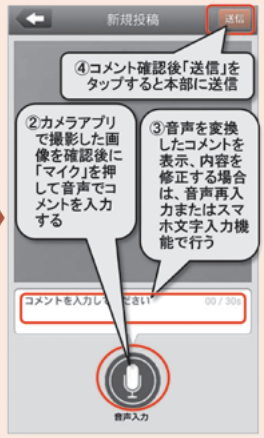


図4 スマートフォンで撮影した画像の地図表示